

女性のがんのなかで患者数が増加傾向にある乳がん。宇都宮セントラルクリニック（宇都宮市）は治療率が高まるように早期発見に加えて、女性に優しい診療環境づくり

医療・介護 最前線 レポート

にも力を入れる。ごく初期のがんも発見できるさまざまな最新検査法も取り入れている。

昨年12月、「プレストセンター」という聞き慣れない施設がクリニック

宇都宮セントラルクリニック（栃木県）



佐藤俊彦理事

の別棟として誕生した。もともと、宇都宮セントラルクリニックはがん検診などの「画像診断」を専門としている。患者の急増で将来、需要が顕在化すると見越し、乳がん

に特化した検診施設を開いた。佐藤俊彦理事は「米国はあちこちにプレストセンターがある。日本の患者比率も米国に近づいている」と話す。プレストセンターは国内ではまだ珍しい。がんが見つかった場合は自治医科大学

《クリニックの概要》

▽所在地	宇都宮市屋板町561の3
▽電話番号	028・657・7300
▽設立	1997年
▽従業員数	63人
▽診療科	内科、循環器内科、呼吸器外科、乳腺外科など

（栃木県下野市）をはじめ、大学病院などを紹介し、大学病院と一体となつて患者をサポートする。

「マンモグラフィ」という乳房の内部を断層撮影する医療機器は一般的になっているが、課題も多い。「乳房を押しつぶす時の痛み」（佐藤氏）で、受診を嫌がる患者が

乳がん検診、女性に優しく



プレストセンターは患者の負担軽減に工夫（宇都宮市）

による検診を勧めめる。ただ、より精緻な検査を望む人にも、がん検診は、がん検診で広がりつつある陽電子放射断層撮影装置（PET）による検査も推奨する。体内に特殊な薬剤を入れ撮影するPETだが、プレストセンターでは、圧力が少ないマンモグラフィ「トモシンセシス」を導入した。佐藤氏によると、国内では2台目だ。専用のPETを台目だ。専用のPETを使うと、2ミリのがんの出来はじめも発見できるとしている。

も、女性がセンターに足を運ばなければ意味がなない。男性の場合、職場の集団検診など機会が多いが、主婦を中心に女性検査を受ける機会がそもそも少ないという。女性も、がん検診を受けようとする動機づけが必要になると強調する。

「40歳になったら、年に1回は検診を」と佐藤氏は呼びかける。東京都内でも画像診断のクリニックを開設しているが、「大きな設備を導入できるところをやりたい」。プレストセンターが地域医療の向上につながるか。注目が集まる。

通常はトモシンセシス 高性能の装置を整えて、40歳以下のがんを切らずに